

令和 6 年度 県立大洗高等学校自己評価表

目指す学校像	・生徒一人一人の自主性・自立性を伸ばし、豊かな人間性と人格の形成を目指す学校 ・社会人として必要な知識と教養を身に付けた人材を育成し、保護者や地域の期待に応え、地域とともに発展する学校 ・普通科及び普通科音楽コースの生徒が、学習、文化・芸術活動等で相互に協力し合う活力ある学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①自主・自立の精神を持ち、豊かな人間性と望ましい人格を兼ね備えた人財 ②時代や社会のニーズを捉え、社会人として必要な知識と教養を身に付けた人財 ③お互いを思いやり、学習面や文化・芸術面など多方面において協力し合うことのできる人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①高い目標に向けて幅広い知識や技術を修得し、上位学校への進学に対応できる学力を身に付けた生徒の進路実現（進学系） ②多種多様な資格取得を通して、社会における実践力・適応力を身に付けた生徒の進路実現（資格系） ③基礎学力の定着を重視し、地域社会のニーズに対応した知識と教養を身に付けた生徒の進路実現（教養系） ④音楽を通して文化的・芸術的な心身を育成し、関東・全国レベルの大会での経験を人生に活かすことのできる進路実現（音楽コース）	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①基礎学力の定着を図りつつ、校内外の様々な活動に挑戦し、その経験を活かして高い進路目標を実現したい生徒 ②資格取得、生徒会活動、奉仕活動などを積極的にを行い、自分の将来に活かしたい生徒 ③音楽が好きで、入学後に関東・全国レベルの大会で活躍を目指して日々努力し、その経験を将来に活かしたい生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
生活面においては、第 1 学年普通科と普通科音楽コースの 2 クラスを 4 分割して、きめ細やかな指導の充実を図った。また第 1 学年全体でグループエンカウンターを複数回、LHR 等で実施したことにより、学校全体が落ち着いた環境となっており、生徒は日々充実した生活を送っていると思われる。今後も、社会情勢等を考慮しながら、生徒一人一人への支援・指導の充実した生徒指導を計画的に実践し、基本的生活習慣の確立、社会性や規範意識の醸成へと繋げていきたい。 学習面においては、基礎・基本を重視した学力の定着のために、少人数学習や習熟度別学級編成を積極的に導入し実践している。校外模試の結果で成績上位者を表彰するだけでなく、前回試験と比較して伸びが	基本的生活習慣の確立、規範意識の高揚及び人間関係づくりを推進する。	①規則正しい生活習慣を確立させ、遅刻や欠席を減らし、社会性を身に着けた服装・頭髪、身だしなみとなるよう指導を行う。 ②奉仕活動や清美活動に積極的に参加する態度を養い、勤労の心を育てるとともに、生徒の人間関係づくりを推進する。	B
	学習意欲を高め、基礎学力の定着を図るために積極的に授業を改善する。	③基礎的・基本的内容を重視した教科指導の充実を図り、基礎学力の向上・定着に努める。習熟度別授業、少人数制授業、ティーム・ティーチングを積極的に取り入れ、全教科において ICT の活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育て、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ④生徒の実態に応じた指導内容の検討や副教材を精選し、生徒の学習意欲を引き出す。結果として生徒の授業に対する満足度の平均値が 3.2 を上回る。 ⑤校内検定の充実を図り、一般常識及び基礎学力を定着させる。	B

別紙様式 2 (高)

大きかった者も表彰した。これは自己肯定感が低い生徒にとって、自分を認めて受け入れるきっかけとなったが、今後も、基礎学力の定着を図るための創意工夫、改善が必要である。 進路面においては、全国の保護者向けの進路動画配信を行い、進路に対する準備を家庭に促した。昨年度は、2年ぶりに国公立大学合格者が出た。進学・就職ともに、今後も継続的に全校を挙げての横断的なキャリア教育が必要である。さらに、これまでの指導に加えて、部活動を始めとする特別活動や地域との連携による探究活動など様々な活動を充実させていくことが今後の課題である。		生徒一人ひとりの資質・特性にあったキャリア教育を推進する。	⑥進路相談室(学習室)の効果的な利用を促進するとともに、資料コーナーの充実や各種ガイダンスを通して、生徒及び保護者への情報提供に努める。 ⑦早期に進路目標を明確にさせるとともに、キャリア・パスポートを活用して生徒の特性を把握し、生徒一人ひとりの希望に応じた的確な進路指導の充実に努める。 ⑧個人面談やガイダンスを計画的に実施するとともに、生徒個々の進路目標実現に向けた指導力の向上に努める。	B	
		特別活動、放課後サークル活動の充実を図る。	⑨放課後サークル活動等への加入率を高め、主体的に活動できる生徒を育成し、学校生活の活性化を図る。 ⑩生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図り、社会性や人間性を養う。	B	
		地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	⑪学校に関する様々な情報をウェブページ等により保護者や地域住民に広報し、学校の教育活動への理解を図る。 ⑫教務部広報広聴係が主体となり、学校評議員や地域住民からの意見を聴取し、適切な対応を行い、地域に密着した学校づくりの一層の推進を図る。 ⑬学校行事への住民参加及び地域行事・活動等への教職員、生徒の参加を推進し、地域との連携体制を構築する。	A	
		生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。	⑭積極的な生徒に対応するために、授業公開や授業研究、教職員研修を積極的に行い、質の高い教育の提供を目指す。 ⑮業務負担軽減に向け、全教職員が業務を分担しながら積極的に学校運営に参加できる体制を構築する。 ⑯効率的な指導や業務改善を図り、勤務超過の時間短縮に努める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	生徒の実情にあった、基礎・基本を重視した授業を展開する。	目標を明確化した授業計画を教科ごとに策定する。④⑤⑭	A	A	引き続き今年度と同様に計画・実施していく。
		観点別学習状況による評価の研究をより進める。③	A		
		基礎・基本を重視した学習内容を策定する。③④⑭	A		
		ICTを活用し、言語活動の充実とアクティブ・ラーニングの推進を図る。③⑭	A		

別紙様式 2 (高)

国語	基礎学力の定着および向上を図る。	授業時の小テストやノートの定期点検を通して、生徒の理解度や学習状況を正確に把握し、個に応じた速度・指導法を行う体制を整える。 ④	A	A	・小テストの実施や机間指導等を通し、生徒の理解度や学習状況を把握しながら指導ができた。 ・図書室を活用し、本に親しむ機会を設けることができた。読書習慣の定着につなげたい。 ・引き続き基礎学力の定着を目指すとともに視覚教材などを活用した授業展開を検討していく。
		授業中や課外における机間指導や声かけを中心としたきめ細やかな指導を行い、生徒一人ひとりの能力に適した指導を目指す。 ③④	A		
	文学に親しむ態度の育成に努める。	文学作品や作家に対する興味関心をもたせる工夫をする。 ④	A		
		図書室の活用や図書の推薦などを通して、読書習慣の定着に努める。 ④	A		
	授業内容の充実にも努める。	教材研究や評価などについて研究を行い、情報共有を密に行う。 ⑭	A		
地理歴史	基礎学力の定着を図る。	基礎基本を平易な言葉や例示で示し、資料活用や体験的活動も交えることで、関心・意欲を高め理解度の向上に努める。 ③④	A	A	言語活動やICT活用の研究を行い、生徒が興味関心を持って取り組むことができるようにする。さらに、次年度は生徒が自ら考える機会を増やしていく。
	学力の向上を図る。	「グローバル世界における日本」を意識しながら、学習内容を自らの課題としてとらえ、深め定着させられるようにする。指導にあたってはICT機器の積極的な活用や言語活動の充実に留意する。 ③④	A		
公民	基礎学力の定着を図る。	基礎基本事項を平易な言葉や例示で示し、資料活用や体験的活動も交えることで、関心・意欲を高め理解度の向上に努める。 ③④	A	A	時事的な題材を取り扱いながら、主権者教育に取り組むことができた。来年度は、より主体的な学習を実現できるように努める。
	学力の向上を図る。	18歳選挙権の実施を想定し、学習を通して、次代の民主社会を担う主権者としての自覚を高める。指導にあたってはICT機器の積極的な活用や言語活動の充実に留意する。 ③④	A		
数学	基礎学力の向上を図る	学習内容の定着のため、小テストを利用して理解度を把握し、必要に応じて補講を実施する。 ④	C	B	・定期考査の点数が30点を未満の生徒に対して、どのようにサポートするべきかを検討する必要がある。 ・定期考査以外で、思考・判断・表現を問う小テストを実施し、知識・技能と区別できる問題を考え、生徒・教員ともに理解しやすいように明確にしたい。 ・教材研究を充実させ、より生徒が主体的に取り組めるように授業展開をしていきたい。
		少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。 ③④	A		
		毎時間、前時の復習をすることで授業内容の定着をはかる。 ④	A		
		アクティブ・ラーニングを通して生徒に考える力や表現する力を身につけさせる。 ③④	C		
	授業に取り組む姿勢を育成する。	授業のノートを定期的に点検し、学びの基礎・習慣をつける。 ④	A		
		発問の工夫をし、授業に集中させる。 ④	B		
		机間指導の時間を増やし、生徒一人ひとりとコミュニケーションをとる。 ③④	A		
	授業内容の向上を図る。	教材研究を充実させ、生徒が興味関心をもてるような授業を展開する。繰り返し学習を行い、知識定着を図る。 ③④	B		
		教科会を密に行い、授業内容・方策等について教科内で研究協議する。 ④⑭	C		
		その日の授業の重要箇所を強調し、授業にメリハリをつける。 ③④	B		
		就職活動に必要な数学の問題も授業で扱う。 ④⑤⑦	B		
	進路に応じた指導を行う。	進路に応じた課外を放課後に行う。 ④⑦	C		

別紙様式 2 (高)

理科	基礎・基本の学力の定着	授業での机間指導や課題の提出を徹底し、質疑応答などの言語活動を通して理解を深め、授業に真剣に取り組む姿勢の定着を図る。③④	A	B	今年度は実習実験や演示実験を前年度より多く実施することができた。一方で実験をして満足する生徒もみられるため、実験から導き出すことのできる法則等科学的な思考力・表現力を育成できるようにしていきたい。		
		単元ごとに確認プリントを用意し、学習事項の理解度の把握に努める。③④	B				
		長期休業中に成績の思わしくない生徒への課外を実施し、基礎的な事項の理解を図る。④	A				
	科学に対する関心の向上	演示実験や視聴覚教材、ICT 機器の活用を積極的に図り、学習に対する関心・興味を引き出すよう努め、体験活動への意欲へと発展させる。③	A				
		大洗町生涯学習課・日本原子力開発機構大洗研究所など地域との連携に努める。⑬	B				
		進路希望に応じた個別指導を実施し、発展的な内容の学習を通じて科学への探究心を養う。④	B				
保健体育	基礎体力の向上、健康保持増進を図る。	年間を通し筋力トレーニングやストレッチ運動を取り入れ運動量の確保を図り、基礎体力の向上を目指す。(体力テストAランク+体力テストBランクの割合35%を目標)④	A	A	体力テストの新しい試みとしてアルファを取り入れ、体力向上動画の視聴や、タブレットを使用した記録の管理をすることができた。また9月からは、HIITを取り入れ体力向上に努めることができた。		
		必要な情報を収集し、健康で安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、課題解決能力の育成を図る。③④	A				
		運動前後の体調管理に気を配り、ケガや風邪などの防止を図る。①					
	生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力の育成に努める。	選択種目を設定し、自らが計画し状況に対応した特別ルールなどを発表する言語活動を充実させる。そして、それに基づいた運動を継続的に行えるようにする。③④	A				
	公正、協力、責任などの態度の育成に努める。	用具等の準備・片付け、また競技における審判など、各役割を分担しお互いに協力して安全に取り組めるようにする。勝負に対して公正な態度がとれるようにする。②	A				
		時間、整列、挨拶、礼儀等についても指導し、基本的な生活習慣を確立させる。①					
芸術（音楽）	芸術の幅広い活動を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め芸術の豊かな情操を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことができる題材を精選する。④	A	A	・歌唱・器楽・鑑賞・創作といった。様々な単元を通して社会にあふれる音楽の見方・考え方について学びを深めることができた。 ・感受したことを共有し自己の表現に繋げていける言語活動等の充実をはかっていきたい。		
		ティーム・ティーチングを活用し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。③	B				
		様々な楽器の基礎的奏法を身につけさせ、体験活動をより充実させる。④	A				
		より多様なジャンルの音楽に触れさせる。④	A				
		鑑賞活動や表現意図を言葉にする活動を通して、言語活動の充実を図る。③④	B				
外国語	基礎学力の定着を図る。	生徒が取り組みやすく、学力の向上に結びつくような教材の研究に努める。④	A	A	・基礎学力の定着を継続して取り組む。 ・習熟度別授業を活用し、レベルに応じた指導を実践することで、実力の向上を図る。 ・ALT との T-T や ICT を活用して、言語だけでなく文化や背景知識についても興味関心を高める工夫をする。		
		習熟度別授業やティーム・ティーチングを実施し、スロー・ラーナーへの支援や学力の高い生徒への対応に努める。③④	A				
		習熟度別少人数編成授業やティーム・ティーチングを実施し、生徒一人一人の興味・関心・疑問に答えられるようなきめ細かい指導を行う。また必要に応じて、個に応じたレベルの放課後課外を実施する。また定期考査でもレベルに合わせた考査の実施を行う。③④	B				
	興味関心の幅を広げる。	テキストを読むことで異文化に対する興味関心を高める。また ALT との言語活動を通して生の英語に触れる機会を増やす。③	A				
	ICT を活用する。	タブレットや電子黒板を活用して効果的な資料の提示や双方向の活動をすることで、英語や異文化に対する興味関心を高める工夫をする。③	A				

別紙様式 2 (高)

家庭	家庭生活に役立つ基礎学力の定着	衣食住を見直し、基本的生活習慣の確立を図る。	①③	B	A	・実験・実習を多く取り入れた授業を実施し生徒の学習への意欲を高めることができた。 ・衣食住を中心とした基本的生活習慣の確立については日常生活に反映することへの課題が残った。
		実験実習を取り入れ、実生活に生かせる授業を展開する。	③④	A		
		学習ノートや課題プリントを通して、言語活動の充実を図る。	③④	B		
		成人年齢引き下げに伴い、消費者教育の充実を図る。	③④			
	生徒が積極的に取り組める授業の改善	授業に臨む姿勢の確立を図る。	①	A		
		ICT の活用や体験学習を取り入れることで、生徒の学習意欲を引き出す。	③④	A		
		校内外の研修に積極的に取り組み、生徒の実態にあった授業の展開と指導方法の確立や教材の開発に努める。	③④	A		
情報	情報社会を生き抜くための態度の醸成を図る。	情報モラルや情報リテラシー、メディアリテラシーを重視した授業を展開し、情報活用能力を醸成する。また、問題解決や探究型の授業を展開し、情報発信能力の向上を図る。	③④	A	A	・ロイロノートを活用し思考を磨く授業を実践することができた。 ・情報デザイン領域に関する専門家を招聘し、実践的な授業を行うことができた。 ・Canva 等新たに導入されたアプリをどのように授業で活用していくか検討したい。
	最先端技術に触れる授業を展開する。	Society5.0 社会に通用しうる能力・態度を養うため、IoT や AI（人工知能）、データ活用に関する内容に積極的に取り組む。県教委の事業を活用し、有識者の話を聞く機会を設け、専門性をたかめるための工夫を図る。	③④⑭	A		
	社会人として必要となる情報技術を身につける。	ワープロ・表計算・プレゼンテーション・ブラウザなどの各種ソフトウェアや Google for Education などのツールの活用、コンピュータの仕組みを理解するためのプログラミング教育を充実させ、基本的な端末活用スキルを身につける。また、資格取得の奨励や受験のためのフォローを充実させる。	③④⑭	A		
商業	情報活用能力の育成を図る。	商業の基礎・基本に加え、社会における実務に即した情報活用能力を育成できるよう個別の指導を充実させる。ビジネスの実践的な内容を交えた授業を展開し、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育み言語活動も充実させる。	③④	A	A	・社会保険労務士を招聘し労働法セミナーを開催するなど、実践的なビジネスの内容を取り入れた授業を展開できた。 ・検定試験直前課外を実施することで、ビジネス計算実務検定について高い合格率が見込めた。 ・今後「マーケティング」や「課題研究」において、地域と連携し、地域の中での大洗高校の在り方を模索していく。
	検定試験に対応できるような授業の展開を行う。	簿記実務検定・電卓実務検定に加え、情報処理検定等に対応した授業や体験活動を行う。資格取得実現のため、放課後の課外学習を充実させる。	⑤	A		
音楽	音楽に関する基礎的な知識及び法則を習得させる。	生徒の実情にあった副教材や課題を精選する。	③④	A	A	・音楽理論について、1 学年では土台作りを 2 学年ではより発展的な内容に取り組むことが出来た。 ・楽曲の表現・技術だけではなく、歴史的な背景等について触れ、教科の横断的な学びにも今後力をいれていきたい。
		基礎理論を幅広く身につけられるようにする。	③④	A		
	器楽・演奏研究の演奏に関する知識や技術を習得させ、音楽性豊かな表現の能力を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことができる題材を精選する。	③④	A		
		学期に 1 回の技能テストに、明確な到達目標を設定し、基礎的な演奏力の伸長を図る。	④	A		
		個人レッスンの充実を図り、より体験活動を充実させる。	④	B		

別紙様式 2 (高)

教務	基礎・基本を重視した指導方法を研究し、生徒の基礎学力の向上に努める。	学習意欲を引き出す教材及び授業法の研究に教科ごとに取り組み校内研究授業を実施する。少人数編成・習熟度別授業を実施し、生徒のニーズにあった授業を展開する。授業開始・終了時刻の遵守を徹底し、遅刻や欠席のない集中しやすい教室環境を維持する。	B	B	・きめ細かなサポート体制は確立されていると思うが、基礎学力の向上の方法についてはさらに検討が必要である。 ・普通科生徒の学力低下が現状である。テスト期間のみならず、学習の遅れがちな生徒への対応が課題である。 ・ICTの積極的活用の促進をする。 ・生徒増に向けて、これまでに無い取り組みを考えて実行する。
		生徒の学力の伸び率を数値化により表現する方法を研究する。①③④⑭	B		
	学習の遅れがちな生徒に対する適切な指導を充実させる。	習熟度別学習、ティームティーチング、少人数制授業を生かして、学習の遅れがちな生徒に対して課題学習や放課後の学習指導を行う。③④	B		
		学習の遅れがちな生徒に対して、きめ細かなサポートや長期休業中各教科で課外指導を実施し、学習内容の確実な定着を図る。④⑤	A		
	生徒募集を充実させる。	生徒の志願者の増加を目指すために、生徒募集を充実させる。教務部広報広聴担当と連携して、学校の広報活動や資料の充実を図る。入学者の学校生活や進路状況等に関する資料を作成し、積極的に中学校へ伝える。⑪⑬	B		
教務部 広報広聴担当	学校の活性化を図る。	本校の教育内容を学校外に公表し、学校生活に前向きな生徒や部活動を熱心に取り組む生徒の情報を把握し、学校全体の活性化に繋げる。⑩⑪	A	A	・情報提供を含め、より多くの先生が広報活動を行えばよい。 ・InstagramやFacebookの更なる活用を勧める。 ・学区（区域）を担当制にして中学校を訪問する。
		音楽コース県外募集については、音楽科主任と連携し、学校訪問等を積極的に実施する。また入学生の出身中学に対しては、近況の報告を定期的に実施する。⑪	A		
	開かれた学校づくりの推進を支援する。	中学校の教職員や地域の方々との交流を図る。また、学校ウェブページを積極的に活用して広報広聴に努める。⑪	A		
	保護者及び地域との連携を深めることにより、開かれた学校としての事業を推進する。	本校の現状に即したPTA・後援会・同窓会の活動を推進するため、年間役員会を積極的に開催する。⑬	B		
		登校指導（本校昇降口）や校外指導（駅巡視や夏季休業期間の地域巡視）をはじめ、学年ごとの事業を行い、地域社会との連携に努める。⑫⑬	A		
生徒指導	基本的生活習慣を確立させる。	さわやかマナーアップ運動を通して、規範意識や公共心を育成する。①②	B	B	・学年や各個人でばらつきの無いようにルールに統一の基準を設け、共通理解のもと生徒指導を実践する。 ・いじめの対応は、引き続き担任等が抱え込まず、組織での早期対応を図る。 ・家庭や関係機関との連携を密に図りながら、生徒への指導と支援を継続して行う。 ・体罰や不適切な指導ではなく、生徒の話によく耳を傾け、寄り添った指導支援を実践し、成長をサポートする。
		頭髪・服装といった身だしなみ指導を徹底し、注意が必要な場合にはその場できちんと直させたり、止めさせたりする指導を行う。①	B		
		生徒が規則正しい生活習慣を身につけ、遅刻や欠席が少なくなるよう家庭と連携を図る。普段から積極的に声かけを行い、生徒へ注意喚起を行う。①	A		
	問題行動の未然防止に努める。	いじめの未然防止（学校いじめ防止基本方針による）と適切な対応を早期に行う。①②	B		
		生徒との面談、アンケートや日頃の「声かけ」により、生徒の様子把握に努める。①②	A		
		登下校指導や町内の巡回指導、列車添乗指導など、家庭や地域と連携を図り、校外指導を実施し、生徒事故を減少させるよう努める。②⑬	B		
		生徒指導だよりを発行し、学校での課題や指導について家庭に理解を求め協力体制を構築する。⑪⑬	A		

別紙様式 2 (高)

進路指導	生徒自らが主体的に進路を選択し、希望する進路を実現できるよう支援する。	進路希望調査や面談の実施、キャリア・パスポートの活用を通じて生徒の進路希望を把握し、その実現に向けた指導体制を整える。 ⑦⑧	A	A	・学年・教科との連携をはかりながら、生徒が自らの希望・適性に応じた進路を選択・実現できるよう、キャリア教育をさらに推進する。 ・次年度以降も進路実現に必要な学力の定着や迅速正確な情報提供に努め、円滑に進路指導を行う。
		ホームルームや総合的な探究の時間等において、3年間を見通した進路活動を行い、各学年において習得すべき目標を定め、生徒の進路意識を高める。 ⑦⑧	A		
		1 学年、2 学年で実施するインターンシップ（就業体験）では、早期からきめ細かな面談を実施することで進路意欲を喚起する。 ⑦⑧	A		
	高校3年間を見通したキャリア教育の推進・指導体制を確立する。	各種課外や模試を実施し、基礎学力の定着や大学入試に対応する学力の育成を目指す。特に、進学希望者に対する個別指導を充実させる。 ④⑦⑧	A	A	
		進路相談室（学習室）の活用を図るとともに、「進路だより」や各種ガイダンスを通して的確な情報を提供する。 ⑥⑦	B		
		企業訪問を実施し、地域と連携して就職求人数の安定を図るとともに、企業の求める人材を育成し、早期離職のないよう、学校全体で就職指導を行う。 ⑦⑧	A		
特別活動	放課後サークル活動を活性化 する。	放課後サークル活動への加入を促し、継続的な活動を行わせる。 ⑨	A	A	放課後サークル活動のさらなる充実を図る。茨城県部活動の運営方針の改定に沿った運営方法を実施していく。学校行事に生徒の意見をより反映させる。海岸清掃ボランティアを継続し、生徒の地域に貢献する気持ちを養う。
	生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図る。	現在ある学校行事の魅力を高め、生徒が意欲的かつ主体的に活動できるようにするとともに、諸行事を通してキャリア・パスポートを活用し、人間関係形成能力・課題対応能力等を高める。 ⑩	B		
		ボランティア委員会を活用し、生徒会とともに「海岸清掃ボランティア」などのボランティア活動を計画的に行う。 ⑩	A		
保健厚生	心身の健康づくり	保健室の充実と健康調査を定期的に行い、生徒の心身の健康管理に備える。 ①	A	A	CANVA を用いた保健室だよりを作成し、生徒の健康への関心を向ける試みをした。また、不審者対応をはじめとした危機管理マニュアルの見直し、確認を徹底することができた。
		「保健だより」を定期的に発行し家庭と連携を図るとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。 ①②	A		
	環境美化意識の高揚	校内清掃の徹底（学期に1度大掃除）とゴミ分別・再資源化推進への意識高揚に努める。 ②	A		
		地域社会における奉仕作業へ積極的に参加する。 ②	A		
	危機管理態勢の確立	各種学校環境調査・測定に適切に取り組み、情報を速やかに開示する。防災避難訓練の計画・実施（年3回）及び「危機管理マニュアル」の利用徹底を図る。 ①⑮	A		

別紙様式 2 (高)

第 1 学年	基本的習慣の確立を図る。 人間関係づくりを推進する。	規則正しい生活習慣を確立させ、ルールを守り、適切な高校生活を送る事が出来るように指導する。グループワーク等を実施し生徒の人間関係づくりを推進する。①②	A	A	・意欲的に学習に取り組む態度を育成する。 ・冷静かつ正しい判断が出来る人材の育成を目指す。 ・継続的に個人面談を行い、ガイダンス等を利用する。早期に進路目標を明確にさせる。
		他学年や生徒指導部と連絡を密に取り、服装頭髮指導を徹底する。①	B		
		他学年、生徒指導部と連携し服装頭髮指導を徹底する。①	B		
	基礎学力の定着と向上に努める。	授業の重要性を生徒に理解させ、適切な学習態度を身につけさせる。①③	A		
		授業担当者と連絡をとり、学習環境を整え、生徒の学習意欲を高める指導を心がける。①④	A		
		総合的な探究の時間を年間指導計画に沿って実施する。⑩⑬	B		
第 2 学年	進路意識を向上させる。	進路指導部と連携してインターンシップを実施するとともに、個人面談や進路ガイダンスを計画的に実施し、進路意識の向上を図る。⑦⑧	A	A	・進路意識の徹底を図り、学習意欲の向上を目指す。 ・個に応じた指導を行い、生徒が適切な進路を選択できるようにする。
	生活習慣を確立するとともに社会性を身につける。	規則正しい生活習慣の継続を促す。①	A		
		HR活動や総合的な探究の時間を通して、他者と協調する精神の醸成や、社会の一員としてふさわしい態度を身につける。②⑩	A		
	基礎的な学力を身につけ、向上させる。	真摯な態度で授業に臨むだけでなく、積極的な学習活動を通して、学習内容の理解の定着を図る。③④	A		
第 3 学年	基本的な学力の定着と向上を目指す。	授業や課外における主体的な学習活動を通して、学習内容の理解と定着を図る。③④	A	A	・年度当初から計画的・段階的な進路支援ができた。また、求人票管理システムの導入により、多くの生徒が早期に進路を決定できた。
	進路実現の支援をする。	進路指導部と連携し、進路決定に関わる情報を授業や集会、求人票管理システム等を通して適切に生徒に伝える。また、個人面談やガイダンスを計画的に実施し、生徒個々に応じたきめ細かい進路指導を行う。⑥⑦⑧	A		
		社会人になる上で必要なマナーや規範意識を理解し定着させる。①②	B		
働き方改革	勤務時間を明確にする。	新勤怠管理システムを活用し、出勤・退勤時間を明確にする。⑬	A	B	・勤怠管理システムを活用し勤務時間を見える化を図っている。業務の棚卸しはまだ十分ではないが、随時検討している。
		出勤・退勤時間を月ごとに確認し、勤務時間を把握する。⑬	B		
	業務の見直しを図る。	各分掌、委員会、学年等において、業務内容を確認し、不要な業務の削減等、業務の軽減を図る。⑮	B		
		必要と判断された業務については、協働による平準化を推進する。⑮	A		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない